



幕末の歌人・橘曙覧には、文久元年（1861）、伊勢神宮への参拝をはじめとして、大坂、京都を旅した紀行文「榊の薫」があります。紀行文を通して、江戸時代の旅、曙覧の旅をご紹介します。



# あけみ 曙覧の旅

## 江戸時代の旅

企画展

年ころ伊勢の両大宮にまうでまつらんと思ひわたりけれど、いつといひで出る日もなう  
いたつらに月日すぐしけるを、天地の神や相たすけ給ひけん、  
此秋ばかり、かろうしてほいとけらるべくなりぬ。



2024年5月23日(木)～9月23日(月・祝)

休館日 月曜日(祝日の場合は翌平日休館)

開館時間 午前9時～午後5時15分(入館は午後4時45分まで)

観覧料 100円

中学生以下、70歳以上、障がい者とその付添人の方は無料  
家庭の日(毎月第3日曜日)は無料です

福井市橘曙覧記念文学館

主催

福井市、(公財)歴史のみえるまちづくり協会

Fukui City Akemi Tachibana Literature Memorial Museum





# 江戸時代の旅 曙覧の旅

橘曙覧には、50歳の時に伊勢神宮参拝をはじめとして1か月以上におよぶ旅を記した紀行文『榊の薫』があります。

『榊の薫』には、文久元年（1861）に長男今<sup>いましげ</sup>滋や同行者と一緒に福井を出発して、現在の岐阜、愛知を経て伊勢を訪れ、その後、奈良、大阪、京都の名所をまわり、福井に帰るまでの様子が記されています。紀行文には、尊敬する本居宣長の奥墓に参詣したことや、当時のさまざまな名所旧跡と現地のにぎわいも記されています。各地で見たり、聞いたりしたこと、また食べた物の曙覧の素直な感想や出会った人々との交流も興味深い作品です。文章を読んで、曙覧の姿を想像すると、クスッと笑える内容もあります。

本展では、紀行文『榊の薫』より、名場面の一部をピックアップし、曙覧の旅の様子をご紹介します。また『榊の薫』を通して、江戸時代の旅をお楽しみいただければ幸いです。

## 〔表面〕

（写真）左上から板取宿、伊勢神宮外宮、四天王寺、富岡鉄斎画「頼氏山紫水明処図（部分）」（当館蔵、中央の庵に京都滞在中の曙覧と長男今滋が描かれています）  
（右上・文）橘曙覧『榊の薫』冒頭より

## 展示解説&曙覧さんトーク

6月8日(土)

7月21日(日)

8月10日(土)

午後2時～(30分程度)

※要観覧券



担当学芸員が展示内容の解説を行います。曙覧さんに関する疑問や質問にもお答えしますので、お気軽にご参加ください。

## 【交通のご案内】

〔JR西日本〕福井駅より車(タクシー)で5分

〔コミュニティバスすまいる〕福井駅西口のりば 照手・足羽方面ゆき  
「愛宕坂」下車 徒歩1分

〔京福バス〕福井駅西口のりば 運動公園線(道守高校先回り)  
または清水グリーンライン「久保町」下車 徒歩2分

〔自動車〕北陸自動車道福井I.Cより 約15分



## 福井市橘曙覧記念文学館